

「やってみたい」「なってみたい」が 子供を育てる

島根県雲南市教育委員会

学校総数（市立）	23校（小学校16校 中学校7校）
全児童生徒数	3064名（小学校1949名 中学校1115名）

1. 雲南市が考える保幼小連携のポイント

(1) 『「夢」発見プログラム幼児期版』の発行

雲南市では、平成19年度に小学生～中学生を対象とした「夢」発見プログラム（雲南市キャリア教育推進プログラム）を作成し、現在、これに基づいて小中学生のキャリア教育とふるさと教育を推進している。これらは、将来の職業や生活を見通し、社会において自立できる子供の生きる力の育成を目指した取組である。この中で、幼児期から小・中学校までの継続性が重要であると考え、平成22年度に「夢」発見プログラムの幼児期版を作成し、現在、市内のすべての保育所・幼稚園で取り組んでいる。



『「夢」発見プログラム幼児期版』は、義務教育版に準じて「平和と人権」「世の中のしくみと勤労」「自然環境・歴史と文化」「基礎的体力・生活リズムと食」の4本の柱で構成されており、その中で「基礎的体力・生活リズムと食」において、「心も体もげんきき」「体をいっぱい動かそう」というキャッチフレーズのもと、「早寝・早起き・朝ごはん」の推奨や様々な運動に触れる機会をつくる重要性を訴えている。

この充実のためには、保育士や幼稚園教員の資質・能力や指導力の向上が重要となっている。

各所・各園は、独自の教育課程や保育課程を編成して保育を行っているが、今後は幼児期の体を動かす遊び・身体活動に対する共通認識・共通理解が必要になってくる。

(2) 雲南市幼児期運動プログラムの作成

今回、雲南市教育委員会では、健康福祉部の専門機関や、市内3か所のスポーツ施設の指定管理者であり、総

合型地域スポーツクラブの運営などにも深く携わる地元企業との連携・協働のもとで、各分野のエキスパートである委員により構成された「雲南市幼児期運動指針実践調査研究委員会」に諮問し、雲南市の環境を生かしながら、市内の乳幼児期の運動における課題に対し独自のプログラムを作成した。



2. 雲南市が考える幼児期の体を動かす遊びのポイント

～子供の「やってみたい!」「なってみたい!」という気持ちを大切にする～

- ・数値の変化ではなく、意識（保護者・保育者・子供）の変化を求める
- ・子供たちの「遊びたい」という気持ちを引き出す保育者・保護者のスキルアップ
- ・発達の段階に応じた体を動かす遊びの重要性についての保育者・保護者への意識啓発



身体能力の向上ではなく、子供の「身体を動かすのは楽しい」という意識を引き出すことをねらいとした運動プログラムの作成を行った。

3. 「わくわくうなんピック」でデータ収集・効果検証

(1) 取組の内容

幼児期運動プログラムの作成と効果の検証のため、「わくわくうなんピック」と称した、幼児の体力測定と様々な体の動きを取り入れた遊びの機会を提供した。その結果、雲南市の幼児期の体力水準データが得られ、保育士・幼稚園教員の意識啓発にもつながった。

また、歩数計装着により幼児の身体活動量の調査を行い、「わくわくうなんピック」の結果と共に、雲南市健康福祉部の専門機関において分析し実態把握を行った。



▲バランスの測定をしている様子



▲どうやったために当てられるのかな？



▲実践研修の様子。プレイリーダーの声かけで動いてみよう。

4. 教員、保育者研修として「子どもを誘う運動遊び」を実施

保育者の資質向上のため「子どもを誘う運動遊び」と題して、身近な自然環境を生かす保育研修、島根県サッカー協会常勤講師による研修に取り組んだ。

保育所や幼稚園においては、保育者がプレイリーダーの役割を担い、子供たちの「遊びたい」という欲求を引き出す環境を構成すること、多様な運動体験ができるような仕掛けづくり「いざない」が重要ポイントになると考える。

5. 幼児期の運動促進に向けて

(1) 押さえておく必要のあること

- ① 子供の「やってみたい」「なってみよう」という気持ちを大切にすること。
- ② 多様な動きを経験できるように援助すること。
- ③ 豊かな自然環境を積極的に活用すること。
- ④ 他者とのコミュニケーションを重視すること。

(2) 幼児期の運動の在り方

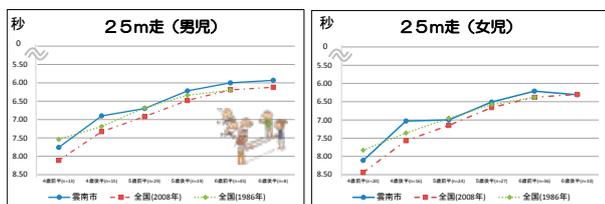
子供たち一人一人の発達の特性には大きな違いがあることを踏まえて、具体的な体を動かす遊びを今後『雲南市幼児期運動プログラム（実践編）』で紹介する。



雲南市では、このようなポイントを踏まえた研修を重ねるとともに、雲南市キャリア教育推進プログラムである「夢」発見プログラムを基に、保幼小中で一貫して取り組み、「うんなん」の子供の育成に取り組んでいきたい。

わくわくうんなんピック（体力・運動能力調査）

- 雲南市(2012-2013年)...調査人数 284人(男児137人、女児147人)
- 全国(2008年)...調査人数 11,520人(男児5,887人、女児5,615人)
- ◆全国(1986年)...調査人数 9,023人(男児4,570人、女児4,453人)



○雲南市幼児の25m走は、6歳後半女児を除き、全国平均値(2008)と比べ高い値であった
○雲南市幼児の25m走は、4歳前半および5歳前半を除き、全国平均値(1986)と比べ高い値であった

参考文献
森可勝、杉原隆、吉田伊津美、筒井清次郎、鈴木康弘、中本浩揮、近藤光夫. 2010. 「2008年の全国調査からみた幼児の運動能力」体育の科学. 第60巻第1号. 55-65.
近藤光夫、松田岩男、杉原隆. 1987. 「幼児の運動能力」1986年の全国調査結果から」体育の科学. 第37巻第7号. 551-554.
幼児期運動指針実践調査研究委員会 2014. 2. 21.

(2) 教員・保護者の感想

① わくわくうんなんピックについて（教員）

- ・意欲的に取り組む子供ほど体力が高い
- ・力強さだけではなく、動きを正確に行う子供の力に注目できた
- ・ふだんの保育で経験できない動きができた
- ・測定結果を保育に生かしたい

② 活動量の測定について（保護者）

- ・歩数計をつけるとパワーが出てくると思っており、転んでも泣かなかった
- ・歩数計を返却して元気がなくなってしまうのが心配なくらい、子供が夢中
- ・歩数計をつけたことで子供の動きたいという意欲がでた
- ・子供の意欲に応えようと休日に外へ出かけた